

Respice Stellam, Voca Mariam !



小鳩会通信

～私たちのしていることは大海の一滴にすぎないと感じています。

けれど、もしその一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。～マザー・テレサ

ルワンダ・ミーティング～永遠瑠マリールイズさんとの交流会～

6月15日（水曜日）放課後、ルワンダの教育を考える会の永遠瑠マリールイズさんとの交流会を行いました。午前には高校Ⅲ年生を対象にルワンダに関する映画鑑賞をした後の講演会が、午後には高校Ⅱ年生を対象にルワンダに関する映画鑑賞をした後の講演会が行われました。講演を聴いてさらにマリールイズさんに質問したりお話を聴きたい方々の他、事前に参加希望した他学年の生徒の皆さんが集まりました。コロナ禍のため対面での交流会は2年ぶりでした。交流会ではマリールイズさんがルワンダに滞在中に現地でロックダウンとなり、9ヶ月間日本に帰国できなくなってしまったこと、しかし、その間ルワンダの児童生徒、保護者に対しての支援活動ができたことなどの報告をいただきました。例えば、液体消毒石けんの作り方を学び、ドイツ大使館から支援金を得て、自分たちで液体消毒石けんを作って販売したそうです。この事業をコロナで仕事を失っていたウムチョムイーザ学園の児童生徒の保護者にさせていただくことで、仕事と生活費を援助することができたというお話を伺いました。収入を得ることとコロナの感染を防止することの両方を兼ねるこの事業を思いつかれたマリールイズさんの経営手腕を感じました。

ウムチョムイーザ学園の学校再開の認可を受けるためには、さまざまな感染防止に努めなければならなかったそうです。密を防ぐため、長机を個机にしたり、手洗い場の設備を整えたりしてようやく始められたそうです。これらの設備資金もウムチョムイーザ学園のようすを取材したNHKのテレビ放送を見た方の寄付によるものとお聞きしました。今回、交流会に参加した生徒の皆さんもこれらの話をしっかりと聴いて、活発な質問をしてくださいました。ウクライナの現状をマリールイズさんはどのように感じておられるかとの質問に対して、戦争は負けた側、勝った側に関わらずどちらにも悲劇である。29年前のルワンダの大虐殺のときに、100万人もの死者を出し、もう絶対に戦争はしてはいけないと世界は感じたはずなのに、ロシアがあればほどの戦争を起こしてしまっていることを非常に悲しんでおられました。そして一刻も早く戦争を止めなければならないと強く訴えられました。私たちも、このことを強く感じました。



交流会の最後にマリールイズさんを囲む参加者の皆さん

皆で分かち合いたい心温まるできごと

先日、足の不自由な女性からお電話をいただきました。「長堀鶴見緑地線の玉造駅でスーツケースを持って階段を上がっていたところ、階段を降りたところであろう明星の生徒が「持ちますよ」と言ってスーツケースを持って再び階段を上がってくれてとても嬉しかったです。」隣人愛を体現してくれていることに心があたたかくなりました。私たちが見失っている「隣人を大切にする気持ち」や「他者への感謝」を改めて思い出すきっかけになればと思います。

久しぶりの保護者会校内募金

5月11日(水)、保護者会募金を行いました。午前中は大雨が降っており、校内のどこで募金活動したらよいかなどと思案しておりましたが、午後はすっきり晴れて、いつもの聖堂前で活動することができました。今回はウクライナ難民支援と子ども食堂のために支援をお願いしました。たくさんの保護者の方々がご協力くださり、また、下校途中の生徒の皆さんも立ち止まって献金してくださる方もいました。本当に感謝します。ウクライナおよび、子ども食堂へ集う子どもたちへの祈りと合わせて、献金させていただきます。次回、2学期も保護者会募金を予定しております。ご協力くださる皆様どうぞよろしくお願いいたします。



◆今回の献金期間と献金先◆ 7月11日(月)～7月20日(水) 終業式

- こどもの生活のために…こどもの里(大阪市西成区)
- こどもの生活のために…児童養護施設 京都聖嬰会(京都市北区)
- ルワンダの教育を考える会…アフリカ・ルワンダでの教育支援

小鳩会委員は、担任の先生と相談して、献金期間のうち都合のよい機会を活用してクラス献金をお願いします。

マリア会総本部公式訪問～2022年5月13日(金)～



ローマにあるマリア会総本部より、公式訪問がありました。2022年5月13日、大阪明星学園に、カトリック男子修道会であるマリア会総長アンドレ・フェティス神父、霊生局長(信仰生活を教導)パブロ・ラバウド神父、教育局長(世界のマリア会学校を教導)マキシミン・マニアン修道士、財務局長マイケル・マクワード修道士、そして、通訳のデビッド・ハーボルド修道士の御一行が公式訪問なさいました。そして、マリア会日本地区長の市瀬幸一神父も一行に加わっての来校となりました。

生徒会を始め、中学校生徒が迎えるマリアンホールにおいて、割れんばかりの拍手とともに皆さんをお迎えしました。コロナ感染対策のために、高校生は、各クラスでのリモート参加となりましたが、心をひとつにしてのお出迎えとなりました。

全校生徒に向けて、次のようなメッセージが届けられました。「マリア会の学校は、世界の五つ大陸に大学をはじめ 100

におよぶ教育機関があり、11 万人以上の生徒が学んでいます。明星の皆さんもその一員です。また、マリア会は、学校にとどまらず、教会や社会福祉など多岐にわたり、人々の幸福に尽くしています。」

スクリーンには、マリア会が世界で活動する様子が紹介されました。マリア会のルーツであるボルドー(フランス)の教会が映されると、「ここはシャミナード神父が司牧した教会です。」という説明が加えられ、学園の皆が知るマリア会創立者の名前に、会場の生徒も感動に顔を見合わせたりしていました。マキシミン・マニアン修道士の講話は、さらに深まります。「持続可能な社会の一員として、環境と調和のとれた人生が大切であること。そのために、自身の内面的な成長を促し、他者への感謝と敬意を忘れないこと」が説かれました。ここに、キリストの説く愛が欠かせないことも強調されました。そして、成長した生徒の皆さんが、他者や社会への奉仕のために自らのタレントを発揮することを求められました。それは、タレントを与えてくださった神に対する応答、責任をまっとうすることでもあります。「地の塩・世の光」「明星紳士」をモットーとする生徒たちは、折りにふれてこのような話を聴いてきましたが、マリア会本部の方々のメッセージに耳を傾ける姿は、一層真剣でした。

マニアン修道士は続けます。「欲望を刺激する消費社会にあって、私たちは、地位や金銭で人生の成功を判断しないこと。節制を心がけて創造的な人生を送ること。そのなかで、他者と分かち合い、相手の財産ではなく相手の人格を愛すること。」そして、最も大切なことは、次のことだと言います。「創造主である神を受け入れること。愛と赦しに満ちあふれた神を通して、またイエスの福音に耳を傾けて、生きる意味を見いだしてください。そして、私たちの信仰の母である聖母マリアを模範として、マリア会とその共同体である私たちが神の愛・福音を体現しましょう。」

「いかに生きるべきか。幸福への道とは。それはすべての人の根源的な問いである。」という前教皇ベネディクト 16 世の言葉とあわせて、「人生は自ずと花開くものではありません。人生とは答えを探し求めることです。」と私たちに問いかけて講話は終わりました。最後に生徒会より、フランス語と英語で感謝の言葉をお伝えし、花束贈呈と記念撮影を行いました。